

B—56 被服材料の透湿性に関する研究(第7報)
透湿量におよぼす毛羽および風速の影
響について

奈良女子大 丹羽 雅子

1. 透湿の過渡状態および定常状態の透湿挙動におよぼす被服材料繊維の影響、織物密度の影響について、モデル実験をも含めてこれまでに検討してきた。

本報では透湿の定常状態において被服材料の毛羽が透湿量におよぼす影響と風速を変化させた場合、透湿量におよぼす風速の影響について検討する。そして、すでにえた結果を総合して透湿の定常状態における透湿機構を明らかにしようとした。

2. 毛羽の影響をみるために、親水性のレーヨン、疎水性のポリエステルの2種の織物を選び、同一織物構造で紡績糸織物とフィラメント糸織物を各々織物密度を6水準に変化させて整織し試料とした。

透湿量の測定条件および方法は前報までと同様で、無風時から漸次風速を増し、各風速段階において材料繊維、織物密度、毛羽、風速の4要因が透湿量におよぼす効果およびこれらの交互作用をみるための実験計画のもとで透湿量の測定を行なった。

3. 無風時において、透湿量におよぼす毛羽の影響は本実験に用いた試料の範囲では認められない。しかし、風速が加わることによって透湿量におよぼす毛羽の影響があらわれ、織物密度の粗密によって毛羽が透湿量におよぼす効果は、その透湿機構を異にするのではないかと推察される。